



要求実現へ向けて

最後まで闘い抜こう!

情報労連2025春闘3.4総決起集会

情報労連は3月4日、都内で「2025春闘3.4総決起集会」を開催した。対面とウェブを合わせて1000人を超す組合員が結集した。集会では要求実現に向けて、組織の総力を挙げて闘い抜く決意を固め合った。

主催者あいさつ

物価を上回る 賃上げが必要 団結力の強化を



安藤京一・中央闘争委員長

私たちの暮らしは物価高騰の影響を受け、厳しさを増している。24春闘では連合全体で33年ぶりの賃上げを実現したが、物価を上回る確実な実質賃金の伸びは実現できていない。



(左) 団結カンパロー(下) 激励のあいさつにかけた吉川さおり参議院議員

情報労連が昨年9～11月に実施した「生活実感調査」では、「何らかの費目で支出を切り詰めている」が全体の6割を占めた。仕事関連の質問では、5割以上で「賃金」への不満が断トツだった。日本経済の安定的成長のためには、物価を上回る賃上げが必要であり、労使の社会的役割と責任が強く求められている。

組合員の生活を守り、維持・向上していくために、情報労連に集うすべての組織で、物価を上回る賃上げを獲得しなければならない。とりわけ、重視するのは中小加盟組合の春闘であり、そこでの賃上げのためには労務費を含めた価格転嫁が必要だ。サプライ

チェーン全体で適切な価格転嫁が実現できるよう、でき得限りの環境整備に取り組んでいく。

交渉を進める上では、経営側がの一方的な論理に埋没することなく、組合員の声を率直に伝え、職場の課題を改善してほしい。交渉を通じて労使の責任あるプロセスと回答を示すことが重要だ。

労働組合には会社と対等に交渉する権利がある。春闘は組合の存在を示す最大の取り組みだ。その営みと結果が、労働組合への求心力に直結する。春闘を通じて組織の団結力・結集力を強化し、暮らしの安心を実現するために組織内候補「吉川さおり」の勝利に向け、組織の総力を挙げて取り組もう。

< 2面に続く >

情報労連に集う仲間とともに 闘う決意を固め合う

加盟組合からの決意表明

全体の賃上げへ 社会的責任果たす

山本雄介
NTT労組



賃金と物価の安定的な上昇の定着のために、NTT 労使にもその社会的責任が強く求められている。NTT グループは成長基調にある。それを支えるのは組合員一人ひとりであり、事業推進をさらに加速させるためにも、組合員のモチベーションとエンゲージメントの向上が欠かせない。

NTT グループは、多くの働く仲間を支えられている。サプライチェーン全体の成長・発展に貢献し、後に続く仲間の交渉へとつなげるため、交渉を強化していく。春闘の結果は、労働組合の存在意義を内外に示す機会でもある。その成果を仲間づくりへとつなげるため、積極的に取り組む。

私には夢がある 今こそ団結しよう

岩本智紀
中国ブロック支部ミウラ労組



「私には夢がある」。マーティン・ルーサー・キング牧師は、すべての労働者の尊厳を守るために闘った。春闘もその精神と通じる。今年の春闘は賃上げが当たり前の社会を実現する第一歩だ。私はここに誓う。すべての組合員の労働環境をより良くするために立ち上がることを。

私たちには夢がある。豊かな生活時間の確保に向け勤務間インターバルの導入へ再び声を上げる。過去最高水準だった昨年を上回るベア要求を掲げる。

私たちは誰もが安心して生活できる明日が訪れない限り、決して満足しない。だからこそ、私たちは闘う。今こそ団結しよう。

人材定着や 育児世帯支援も

河野歩実
関東信越ブロック支部NTT-ATユニオン



2015年に初めてベースアップを獲得して以来、着実に成果を積み重ね、2024年春闘では過去最高額のベースアップを勝ち取った。2025年春闘では物価上昇を上回るベアで賃上げの定着を図る。

25春闘では、エンジニアが成長を実感できるよう、人材獲得や定着に向け取り組む。育児世帯の支援や、不妊治療を行う世帯へのサポートについても会社と議論を重ねていく。

私たち労働者の賃金は30年間ほぼ変わっていない一方で、メジャースポーツ選手の年収は飛躍的に上昇している。私たちの賃金も当たり前のようにならなければならない。そのためにも2025春闘でベアを勝ち取り、その第一歩にしたい。

再出発からの 団交で成果獲得

根岸千佳子
De-self 労組ヨシケイ東京支部



1987年にユニオンショップ協定を締結し活動してきたが、2023年に会社から一方的に協定破棄を通告されるという異常事態に陥った。給与を下げるための計算方法の変更やボーナス不払いなどがあり、組合がなくなるとはいけなくて強く確信した。

オープンショップに移行して、紆余曲折あったが、団体交渉できるようになった。昨年の春闘で初めて、基本給のアップや業務中の交通事故における罰金制度の廃止を要求した。妥結まで5カ月を要したが、要求を勝ち取ることができた。私たちにとって大きな成果となり、組合活動への理解も深まった。

私たちは小さな支部だが、諦めず粘り強い交渉を信条とし、要求を勝ち取れるよう最善を尽くす。